



みこまい じよせい おど 巫女舞は、なぜ女性が踊るの

みこ じよせい 巫女というのは、女性

じんじゃ さんばい い かんぬし しんじやく しろ うわぎ あか じよせい
神社に参拝に行くと、神主さん(神職)のほかに、白い上着に、赤いはかまをつけた女性
み じよせい みこ
を見かけますね。この女性を巫女というのです。

みこ じんじゃ ぞく しんじ ほうし かぐら ま かんぬし しごと てだす
巫女は、神社に属し、神事に奉仕し、神楽を舞ったりして、神主さんの仕事を手助けする
ひと
人のことをいうのです。この巫女が踊るのが、巫女舞というわけです。御子舞、神子舞など
か みこかぐら
とも書き、巫女神楽ともいいます。

みこまい かみさま つか みこ かみ しんれい ひと からだ の うつ
巫女舞は、もともと、神様に仕えていた巫女が、神がかり(神霊が人の体に移ること)になって、
せんたく かみ つつ た ま ま
宣託する(神のお告げを伝えること)ために、舞いを舞ったのです。こうした
かみ ま ひん はってん ようしきか
神がかりの舞いが、よりすぐれた、品のあるものに発展し、様式化されたのです。これが
じんじゃ まえ すず きとう ほうのうまい
のちになると、神社の前で、鈴をふりながらの祈禱の奉納舞にもなりました。

みこまい きほん すず おうぎ も まわ ま
巫女舞の基本は、鈴、サカキ、ササ、みてぐら、扇などを持って、くるくる回りながら舞
います。

いま にほんかくち みこまい のこ でんとうげいのう えんぎ ところ
今でも、日本各地に巫女舞が残っており、伝統芸能として演技される所もあります。

しんとう かみさま まつ じんじゃ 神道の神様を祭る神社

じんじゃ しんとう かみさま まつ さんばい しせつ ところ
神社とは、神道の神様を祭り、参拝のための施設がある所のことです。やしろとか、
みや
お宮などともいいます。

じんじゃ さいじん かみさま
それぞれの神社には、祭神といって、おまつりしてある神様がおられます。たとえば、
いせじんぐう ないくう さいじん あまてらすおおみかみ げくう とうけのおおかみ
伊勢神宮の内宮の祭神は、天照大神、外宮は、豊受大神です。(監修・青木 国夫)

